

地域共同のまちづくりによる社会的不利地域の 再生に向けたアクションリサーチ

3地区まちづくり合同会社
AKYインクルーシブコミュニティ研究所
山本 周平

背景

3地区（浅香、加島、矢田地区）の子どもを取り巻く問題

- ・ひとり親世帯や外国にルーツを持つ子どもの増加
- ・ネグレクトや虐待
- ・低学力
- ・子どもの居場所として機能していたコミュニティセンターの喪失により地域の子どもの実態が見えにくい

背景

3地区における地域の取り組み—子ども食堂



浅香のイベント型子ども食堂の様子

加島の子ども食堂の様子



背景

3地区における地域の取り組み—子ども食堂

- ・ 2016年頃より定期的開催
- ・ 大人と子どもの顔の見える関係づくり
- ・ 子どもの実態把握
- ・ 小中学校との情報共有

	浅香	加島
開始時期	2016年10月	2017年4月
頻度	月1回	月1回
実施場所	社会福祉法人事務所	地区内の市営住宅集会所
対象者	小中学生：無料	小中学生：無料 高校生以上：300円
運営主体	チャレンジ会（ボランティア）	NPO法人すいすいすていしょん
運営資金	寄付+助成金+小事業収益	寄付+助成金+参加費
他団体との連携	小中学校の教職員との会議や、区内の子ども食堂連絡会での情報交換	小中学校への情報提供

子ども支援ネットワーク構築の試み

2017年度

子どもの貧困対策セミナーvol.1-vol.3

- ・地域の取り組みをさらに発展させるためのネットワーク作りが目的
- ・対象：小中学校教職員、研究者、学生、行政関係者
- ・全3回で延べ94名が参加

・子どもの貧困対策セミナーvol.1

「子どもの貧困が生み出すメンタルヘルスの問題」 精神科医 大久保圭策 氏

・子どもの貧困対策セミナーvol.2

「子どもの貧困をどう捉えるか」
同志社大学社会学部教授 埋橋孝文 氏

・子どもの貧困対策セミナーvol.3

「学校にできること・できないこと」
大阪大学人間科学部教授 高田一宏 氏



第1回の様子

子ども支援ネットワーク構築の試み

2018年度

子どもの貧困対策セミナーvol.4-vol.6

- ・ テーマ：外国にルーツを持つ子どもの支援←矢田での実態調査結果を受け
- ・ 今後の地域実践を模索することが目的
- ・ 大阪府下での実践報告（八尾市安中地区、矢田地区、ミナミ）
- ・ 八尾市安中地区のベトナムコミュニティ視察（vol.5）
- ・ 全3回で延べ75名が参加

・ 子どもの貧困対策セミナーvol.4

「NPO法人トッカビのルーツ語教室」大阪大学大学院人間科学科 藪田直子 氏

「外国にルーツを持つ子どもの実態調査報告」

NPO共生と自立のまちづくり・ふれあい 袈裟丸朝子 氏

・ 子どもの貧困対策セミナーvol.5

「八尾市の多文化共生施策」八尾市人権文化ふれあい部 理事 網中孝幸 氏

「NPO法人トッカビの活動紹介」NPO法人トッカビ 代表理事 朴洋幸 氏

ベトナムコミュニティフィールドワーク

・ 子どもの貧困対策セミナーvol.6

「外国人母子支援の仕組みづくりーMinamiこども教室の実践」

NPO法人コリアNGOセンター 事務局長 金光敏 氏

子ども支援ネットワーク構築の試み

子どもの貧困対策セミナーvol.4-vol.6（2018年度）



Vol.4



Vol.5



Vol.6



子ども支援ネットワーク構築の試み

地域で考える子どもの貧困国際シンポジウム(2019.1.31)

- ・ **テーマ**
東アジア諸国における外国にルーツを持つ子どもの支援と包摂型移民政策
- ・ **内容**
台湾、韓国、アメリカ、日本における移民政策や外国にルーツを持つ子どもの支援実践の報告
- ・ **参加者**
教育関係者、研究者、学生、行政関係者44名

地域で考える子どもの貧困・国際シンポジウム
**東アジア諸国における外国にルーツを持つ
子どもの支援と包摂型移民政策**

日時 2019年1月31日(木) 13:00~19:00
場所 大阪市立大学高原記念館学友ホール

参加費
無料
要申込

開催趣旨
国を超えて越境する人の流れが激しくなっている中、日本でも訪日・滞日(定住)者の増加が目立ってきています。新しいビジネスが創出され、移住者のカテゴリーはさらに広がりを見せ、生活支援の課題も喫緊の課題となっています。今回のシンポジウムは、外国にルーツを持つ家族や子どもの支援課題に焦点を当て、諸外国の先進的な取り組みや、大阪での実践を取り上げ、今後の地域実践に活かすための議論の場にしたいという思いから企画しました。このようなテーマにご関心のある多くの方々の参加をお待ちしております。

お申込み / お問い合わせ
①ご氏名、②ご所属を明記の上、件名に「国際シンポ希望」とお書きになり、メールでお申し込みいただくか、ホームページよりお申し込みください。
※終了後の懇親会(会費制)に参加ご希望の方は、その旨もお書き添えてくださいようお願いいたします。

3 地区まちづくり合同会社
AKY インクルーシブコミュニティ研究所
MAIL : 3chiku@aky-institute.com
HP : http://aky-institute.com
TEL : 06-6693-2166

会場アクセス
会場
浅草中央公園

プログラム

12:30 開場

13:00~14:00 **報告①(台湾)**
「台湾における移民の現状と家族支援」(後)
Eun-Young Yu 氏 (国立台湾大学)

14:00~15:00 **報告②(韓国)**
「韓国における移民女性のエンパワーメントと多文化実践」(後)
PORARA-IJESSAGE IJCS-IADLANE イェンシャ・ハベラリ 氏 (移民女性自助連合体 TALK TO ME)

15:00~16:00 **報告③(アメリカ)**
「アメリカにおける移民の実態と家族支援の課題」(後)
Myoung-Shik(Mason)Kim 氏 (Spelman College)

16:00~16:15 休憩

16:15~16:45 **報告④(日本)**
「大阪市立Y小学校における外国にルーツを持つ子どもへの支援」(後)
中村 純 氏 (大阪市立Y小学校)

16:45~17:15 **報告⑤(日本)**
「大阪市内A中学校区における外国にルーツを持つ親子の実態調査報告」(後)
川本 雄 氏 (大阪市立大学都市研究プラザ)

17:15~17:45 **報告⑥(日本)**
「日本における移住者・難民支援の現状と課題」(後)
ビスカルド栗子 氏 (カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナゼス 活動センター・シノピス)

17:45~18:15 **報告⑦(日本)**
「外国にルーツを持つ子どもの高校進学における課題とその支援」
埴内 好子 氏 (NPO 法人おおさかこども多文化センター)

18:15~19:00 **総論討論**
全海堂 氏 (大阪市立大学都市研究プラザ)

19:00 閉会

※終了後に会場近辺において懇親会(会費制)を予定しています。
主催: AKY インクルーシブコミュニティ研究所
後援: 大阪市教育委員会(予定)、大阪市立大学都市研究プラザ
協力: カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナゼス

※本シンポジウムは、大阪市立大学都市研究プラザ附属都市研究拠点からの共同研究助成の他、大阪市立大学総合的研究(代表:全海堂)及び福研(代表:川本雄)による助成を得て実施します。

子ども支援ネットワーク構築の試み

「外国にルーツのある親子の実態とニーズに関する調査」の概要

- ・ **調査の目的**：外国にルーツを持つ親子の実態やニーズを把握し、地域ができる支援活動の立ち上げにつなげる。
- ・ **調査の対象**：我孫子南中学校区（依羅小学校、我孫子南中学校）の外国にルーツのある子どもおよびその家族25世帯（B小学校20世帯、C中学校5世帯）
- ・ **調査時期**：2018年11月～12月
- ・ **調査方法**
 - ①今回はプレ調査のため、浅香地区とのつながりが深い小中学校を選定。
 - ②対象小中学校の校長に質問紙（日本語・英語）を渡し、担任が懇談会時に配布。
 - ③郵送にて研究室に送付（2019.1.31現在、5世帯より回収）

* 来年度に住吉区東部の小中学校に対象を広げ実施予定。

子ども支援ネットワーク構築の試み

<調査結果>

○両親の出身国

- ・両親ともに中国籍…4、
- ・父親が日本人、母親がフィリピン人…1

○家庭内での言語

- ・中国語…2、中国語と日本語…2、日本語…1

○子どもの外国出身の親の言語の理解度

- ・完全に理解し、話すことができる…4、聞くことはできるが、話すことはできない…1

○子どもに出身国の言葉や文化を学ばせたいと思うか

- ・思う…5、その理由…コミュニケーションを円滑にし、親の国の言葉を理解するため。

○子育てをしていて困ることがあるか

- ・ある…2、具体的な内容…言葉がわからない、日本の育児習慣がわからない、相談できる人がいない、生活費の負担、学校関連経費、周りに助け合える人がいない
- ・ない…3

子ども支援ネットワーク構築の試み

<調査結果>

○困ったことがあるとき主に相談する人

- ・配偶者…3、日本人の友人…3、同国人の友人…2、役所などの窓口…1

○子どもの教育で心配なことがあるか

- ・ある…2、具体的な内容…自分が子どもたちを助けることができない、子どもの学力、進学。

- ・ない…3

○進学について心配なことがあるか

- ・ある…2、具体的な内容…子どもの学力、経済的な問題、日本の学校についての情報が届かない。

- ・ない…3

○学校への要望

- ・ある1、具体的な内容…すべて英訳をつけてほしい、学校で大切なことは、最終的には個人に電話などでお知らせしてほしい。

- ・ない…3、わからない…1

○その他意見等

- ・すべての言語が可能なようにしてほしい：なかでも親の理解を助けるために英語版は必須だと思う。

子ども支援ネットワーク構築の試み

<調査結果からわかること>

- ① 親の言語については、ほとんどが理解し、話すことができた。また、**全員が親の出身国の言語や文化を学ばせたい**と思っていることがわかった。
- ② 子育てで困っていることとして、言葉の問題、日本の育児習慣がわからない、相談できる人、**周りに助け合える人がいない**、生活費・学校関連経費の負担などが挙げられた。
- ③ 教育、進学については、**子どもの学力、経済的な問題**、日本の学校に対する**情報が届かない**などが挙げられた。
- ④ 学校への要望などでは、お知らせを少なくとも**英語に翻訳する、電話する**等を通じて、最終的に親側に伝わるようにしてほしいとの意見が出た。

今後について

- ・ 子どもの貧困対策連続セミナーの継続
- ・ 3地区周辺における外国にルーツを持つ子どもとその家庭が抱える課題やニーズの調査



地域でできる支援を模索していきたい